

レタルヲ不平トシ其債主權ヲ妨害スルノ惡意ヲ以テ該證書ニ貼用シアル印紙及ビ乙名下ノ印影ヲ墨ニテ抹却シ其證書ノ効用ヲ失ハシメタルニ在ルヤ明白ナレハ原裁判ノ刑法第四百二十四條ニ依リ處斷セシハ至當ナリ

三圓以上三十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス(刑)二
一〇三
八九

違警罪
第四百二
十五條

學說

(違警罪トハ)警察ノ規則ニ違フ罪ナリ(警察トハ)行政ト司法トノ爲メニ設ケタルモノナリ(行政ハ)禍害ヲ豫防シ(司法ハ)犯罪ヲ捜索スルモノナリ是レ皆國ノ安寧ヲ保護シ幸福ヲ増進セシムルニアリ即チ違警罪ハ此社會ノ利益ヲ圖ルニアリ此行政ノ目的ヲ達スルニハ人ニ或ル所行ヲ命シ又ハ禁スルヲアリ而シテ之ニ違フ者本編ノ罰スベキモノナリ本編ノ規定ニ違フモノハ有意無意ヲ問ス是レ違警罪ノ無意犯タル所以ナリ夫此ノ如ク違警罪ハ社會ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノナレハ自然ノ理ヨリ出タルモノニ非ズ然レモ危險即チ禍害ヲ防ク警察ノ規則ニ背ク時ハ既ニ道德ニ反スト雖モ只是レ此規則ニ背クノミナレハ背德ノ點甚々輕シ是レ刑ノ從テ輕キ所以ナリ又其加害ノ點ニ至テハ地勢人情氣候等ノ殊別ニ因リ異ルアリ或ハ同一ナルアリ是レ一般ノ警察罪ト地方違警罪ト由テ出ツル所以ナリ此刑法ノ違警罪ハ罪ノ種類ニ因テ分タズシテ刑ノ輕重ニ基テ之レヲ五個ニ分チタリ今罪ノ性質ニ付キ分ツ時ハ○第一人ノ身體ニ對シ加害ヲ豫防スル者即チ罵詈及ヒ毆打シテ傷ヲ爲サハルモノ或ハ醫師癡癩故ナク急病人ノ招子キニ應セサルモノ等ナリ○第二所有權ヲ保護スル目的ヨリ出テタルモノ即チ蒸氣器械其ノ他烟筒等ヲ掃除スル規則ニ違背シタルモノ等ナリ○第三人身ト所有權トヲ保護スル目的ヨリ出テタルモノ○第四他ノ犯罪ヲ豫防スル目的ヨリ出テタルモノ即チ人ノ住居セサル家ニ潛伏シ又ハ定メタル住居ナクシテ徘徊スルモノ○已上四者ノ中有意ト無意トヲ問ハサレトモ無意ナレハ罰セサルコトアリ即チ人ヲ毆打シテ傷ヲ爲サハルトキノ如キ或ハ道ノ標示ヲ毀損スル如キ是レナリ又無意ナルトキ罰スル場合ト雖モ抗拒ス可ラサルコト或ハ天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危險ニ違フテ爲シタルキハ不論罪ノ條ニ抵觸スルコトナシ

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

學說

第一項ノ所爲ハ第一火藥其他破裂スヘキ物品ナルヲ 第二規則ヲ遵守セスシテ其物品ヲ市街ニ運搬スルノ二條件ヲ以テ其罪ヲ成ス其市街トハ人家稠密往來熱鬧ナル場所ヲ云フ此物品ハ其犯罪ノ用ニ供シタルト云フベカラス故ニ之ヲ沒收スルヲ得ザルモノトス

學說

第二項ノ所爲ハ第一火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ發火ス可キ物品ナルヲ 第二規則ヲ遵守セスシテ貯藏シタルノ二條件ヲ以テ其罪ヲ成ス者ナリ又其物品沒收スルヲ得サルノ點ニ付テハ前項ノ理由ニ同シ

學說

第三項ノ罪ハ第一官許ヲ得サルヲ 第二烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタルノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第四項ノ所爲ハ第一人家稠密ノ場所ナルヲ 第二濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタルノ二條件ヲ以テ其罪ヲ成ス

學說

第五項ノ所爲ハ蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スルノ規則ニ違背シ其建造ヲ爲スカ又ハ修理セサルカ若クハ掃除セサルニ於テ罪ト成ル

學說

第六項ノ罪ハ第一官署ノ督促ヲ受ケタルヲ 第二崩壞セントスル家屋牆壁タルヲ 第三修理ヲ爲サルノ三條件ヲ以テ成ル

違警罪

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品又ハ自ラ發火スヘキ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒大竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受テ崩壞セントスル家

學說 第七項ノ罪ハ第一官許ヲ得サルヲ 第二死屍ヲ解剖シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

學說 第八項ノ罪ハ第一自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知リタルヲ 第二官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

學說 第九項ノ罪ハ第一故意アルヲ 第二人ヲ毆打スルヲノ二條件ヲ以テ成ル

屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七官許ヲ得スシテ死

屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ

死屍アルヲ知テ

官署ニ申告セス又

ハ他所ニ移シタル

者(刑)二六

九人ヲ毆打シテ創傷

疾病ニ至ラサル者

(刑)二九
九以下

十密ニ賣淫ヲ爲シ又

ハ其媒合容止ヲ爲

シタル者

十一人ノ住居セサル

家屋内ニ潜伏シタ

ル者(刑)二七一、
二七二、

十二定リタル住居ナ

ク平常營生ノ産業

ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

學說 本項ノ罪ハ娼妓ニ非サル者密ニ淫ヲ賣リタルニ於テ成ル又其周旋ヲ爲スカ若クハ其實行ノ席ヲ貸シタルニ於テ成ルモノトス
令訓 (十四年十二月九日第三十四號布告)密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘ共當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

學說 第十一項ノ罪ハ第一人ノ住居セサル家屋ナルヲ 第二其家屋ニ潜伏シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル但其第一ハ他人ノ所有ニ屬シタル家屋ヲ要スベク第二ノ潜伏ハ無斷ニ係ルヲ要スベキヲ勿論タルベシ

學說 第十二項ノ諸方ニ徘徊スルニアラサレハ此罪ヲ成サトナリ則チ此罪ノ條件ハ一定リタル住居ナク且ツ平常生ヲ營ムノ産業ナキヲ 第二諸方ニ徘徊スルヲ是レナリ此レ其性質集合犯ニ屬スルモノトス

學說

第十三項ノ罪ハ第一官許ヲ得タル墓地外ナルヲ 第二私ニ埋葬スルヲ二條件ヲ以テ成ル

學說

第十四項ノ罪ハ第一惡意アルヲ 第二眞實ニ違フヲ 第三害アルヲ三條件ヲ以テ成ル

十三官許ノ墓地外ニ

於テ私ニ埋葬シタ

ル者(刑)二六
四以下

十四違警罪ノ犯人ヲ

曲庇スル爲メ偽證

シタル者但被告人

偽證ノ爲メ刑ヲ免

カレタル時ハ第二

百十九條ノ例ニ從

フ

第四百二十六條 左ノ

學說

第一項ノ所爲ハ第一人家ノ近傍ナルカ又ハ山林田野ナルヲ 第二濫リニ火ヲ焚クヲ二條件ヲ以テ此罪ヲ成ス

學說

第二項ノ所爲ハ第一相當ノ官吏ヨリ爲シタル正當ノ求メナルヲ 第二水火其他ノ變ニ際シテ其求メアリタルヲ 第三之ヲ受ケ傍觀シテ肯セサリシヲ三條件ヲ以テ其罪ヲ成ス

諸件ヲ犯シタル者ハ

二日以上五日以下ノ

拘留ニ處シ又ハ五十

錢以上一圓五十錢以

下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山

林田野ニ於テ濫リ

ニ火ヲ焚ク者

二水火其他ノ變ニ際

シ官吏ヨリ防衛ス

可キノ求メヲ受ケ

傍觀シテ之ヲ肯セ

サル者(刑)二七七

三不熟ノ菓物又ハ腐

敗シタル飲食物ヲ

販賣シタル者(刑)二五三

四健康ヲ保護スル爲

メ設ケタル規則又

ハ傳染病豫防規則

ニ違背シタル者

(刑)二四六以下

五人ノ通行ス可キ場

學說

第三項ノ罪ハ第一不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ナルヲ 第二之レヲ販賣シタルヲ 第三故意アルヲノ三條件ヲ以テ成ル不熟ノ菓物ハ何人ト雖モ一見シテ之レヲ知ルモノナレハ現ニ其菓物ヲ賣ルヲ以テ故意ヲ證スベシト雖モ其腐敗ノ飲食物ニ至テハ或ハ管ミルヲ遺忘シテ販賣スルヲナシトモ故ニ其飲食物ニ係ルモ腐敗シタルヲ知ツテ販賣シタルヲ即チ故意アルヲノ證明ヲ要スベキナリ

學說

第四項ハ唯規則ニ違背ノ點アレハ則チ罪ヲ成ス

學說

第五項ノ罪ハ一人ノ通行スベキ場所ニアル危險ノ井溝其他四所ナルヲ 第二之レニ蓋又ハ防圍ヲ爲サルヲノ二條件ヲ以テ成ル

所ニアル危險ノ井溝其他四所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サル者(刑)四二七

六路上ニ於テ犬其他

ノ獸類ヲ喉シ又ハ

驚逸セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠

リ路上ニ徘徊セシ

メタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖

學說

第六項ノ罪ハ第一路上ナルヲ 第二犬其他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第七項ノ罪ハ第一發狂人ナルヲ 第二看守ヲ怠リタルヲ 第三爲メニ其狂人ノ路上ニ徘徊シタルヲノ三條件ヲ以テ成ル

學說

第八項ノ罪ハ第一狂犬猛獸等ニ係ルヲ 第二其繫鎖ヲ怠リ爲メニ路上ニ放レタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

違警罪

學說

第九項ノ罪ハ第一變死人ナルヲ 第二檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタルヲ二條件ヲ以テ成ル

ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受

ケスシテ埋葬シタル者

(刑二六四)

學說

第十項ハ第一墓碑及ヒ路上ノ神佛ナルヲ 第二之ヲ毀損シ又ハ汚損シタルヲ 第三故意アルヲ三條件ヲ以テ成ル

十墓碑及ヒ路上ノ神

佛ヲ毀損シ汚瀆シタル者

(刑二六三)

學說

第十一項ノ罪ハ第一神祠佛堂其他公ノ建造物ナルヲ 第二汚損シタルヲ 故意アルヲ三條件ヲ以テ成ル

十一神祠佛堂其他公

ノ建造物ヲ汚損シタル者

(刑二六二)

學說

第十二項ノ罪ハ第一公然ナルヲ 第二罵詈訕弄シタルヲ二條件ヲ以テ成ル但シ此罪ハ被害者ノ告訴アルニアラサレハ之レヲ論スルヲ得ス

十二公然人ヲ罵詈訕

弄シタル者但訴ヲ

待テ其罪ヲ論ス

(刑一四一、三二九、三五〇、三五三、三五八、三六二、四二三)

第四百二十七條 左ノ

諸件ヲ犯シタル者ハ

一日以上三日以下ノ

拘留ニ處シ又ハ二十

錢以上一圓二十五錢

以下ノ科料ニ處ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅

學說

第一項ハ第一濫リニ車馬ヲ疾驅シタルヲ 第二行人ノ妨害ヲ爲シタルヲ二條件ヲ以テ罪ヲ成ス

違警罪

學說

第二項ノ罪ハ第一制止ヲ肯セサルヲ 第二人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタルノ二條件ヲ以テ成ル

シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

學說

第三項ノ罪ハ第一夜中燈火セサルヲ 第二車馬ヲ疾驅スルヲノ二條件ヲ以テ成ル

三夜中燈火ナクシテ

令訓

(十五年四月廿九日第二十二號太政官達)刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人制服ヲ着用

車馬ヲ疾驅スル者

學說

第四項ノ罪ハ第一道路ニ木石等ヲ堆積シタルヲ 第二之ニ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタルノ二條件ヲ以テ成ル

四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈

學說

第五項ノ罪ハ第一道路家屋圍圍ナルヲ 第二瓦礫ヲ投擲シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

ヲ怠リタル者(刑)四
五瓦礫ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者

學說

第六項ノ罪ハ第一禽獸ノ死屍ナルヲ 第二道路ニ棄擲シ又ハ取除カサルヲノ二條件ヲ以テ成ル

六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カル者

學說

第七項ノ罪ハ第一汚穢物ナルヲ 第二道路家屋圍圍ニ投擲シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

七汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者

學說

第八項ノ罪ハ第一警察ノ規則ニ違背シタルヲ 第二工商ノ業ヲ爲シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲

學說

第九項ノ罪ハ醫師穩婆ノ職業ヲ爲スモノタルヲ 第二急病人ノ招キナルヲ 第三故ナク之レニ應セサルヲノ三條件ヲ以テ成ル

シタル者

九醫師穩婆事故ナク

シテ急病人ノ招キ

ニ應セサル者(刑)二七九二

八二、

學說

第十項ノ罪ハ第一死亡ノ申告ヲ爲サハルヲ 第二埋葬シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

十死亡ノ申告ヲ爲サ

スシテ埋葬シタル

者(刑)二六四、

學說

第十一項ノ罪ハ第一流言浮説即チ無根ノ妄言ナルヲ 第二爲メニ人ヲ誑惑シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

十一流言浮説ヲ爲シ

テ人ヲ誑惑シタル

者(刑)二七二、

學說

第十二項ノ罪ハ第一妄リニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シタルヲ 第二人ヲ惑ハシムルヲ 第三利ヲ圖ルヲノ三條件ヲ以テ成ル本項ノ罪ヲ斷スルニハ最も第一ノ條件有無ヲ審究セサル可カラズ何者苟モ其吉凶禍福ニ在テハ易學相說等ノ書ニ付キ古來ノ傳法ニ依據シ學フ所アリテ爲シタルモノナラシカ之レヲ妄リト云フヲ得ス祈禱符呪ノ如キモ古來寺社其宗教上ノ傳法ニ依據シ爲シタルモノナラン乎之モ亦妄リト云フヲ得ス既ニ妄リト云フヲ得サル乎毫モ罪ノ問フ可キモノニアラサルナリ故ニ其第一ノ條件アリトセンニハ學ヒタルナク宗教上ニアラス則チ根據スルノ法ナクシテ其所行ヲ爲スニアリトス

十二妄ニ吉凶禍福ヲ

説キ又ハ祈禱符呪

等ヲ爲シ人ヲ惑ハ

シテ利ヲ圖ル者

(刑)三九〇、

十三私有地外へ濫リ

ニ家屋牆壁ヲ設ケ

又ハ軒楹ヲ出シタ

ル者

十四官許ヲ得スシテ

路傍又ハ河岸ニ床

學說

第十四項ノ罪ハ第一官許ヲ得サルヲ 第二路傍又ハ河岸ニ床店ヲ開キタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第十五項ノ罪ハ第一路上ノ植木又ハ市街ノ常燈若クハ廁場ナル
第二之レヲ毀損シタルヲ 第三故意アルヲノ三條件ヲ以テ成ル

店等ヲ開キタル者

十五路上ノ植木市街

ノ常燈及ヒ廁場等

ヲ毀損シタル者

(刑)四一七、
四一九、

學說

第十六項ノ罪ハ第一道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及
指道標ノ類ナルヲ 第二之レヲ毀棄汚損シタルヲ 第三故意ニ出
テタルヲノ三條件ヲ以テ成ル

十六道路橋梁其他ノ

場所ニ榜示シタル

通行禁止及ヒ指道

標ノ類ヲ毀棄汚損

シタル者(刑)四
二〇、

第四百二十八條 左ノ

學說

第一項ノ罪ハ第一官署ヨリ價格ヲ定メタル物品ナルヲ 第二其定
價以上ニ之ヲ販賣シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

諸件ヲ犯シタル者ハ

一日ノ拘留ニ處シ又

ハ十錢以上一圓以下

ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價格ヲ定

メタル物品ヲ定價

以上ニ販賣シタル

者(刑)三
九二、

二渡船橋梁其他ノ場

所ニ於テ定價以上

ノ通行錢ヲ取り又

學說

第二項ノ罪ハ第一渡船橋梁其他ノ場所ナルヲ 第二定價以上ノ通
行錢ヲ得又ハ故ナクシテ通行ヲ妨ケタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

學說 第三項ノ罪ハ第一渡船橋梁其他ノ通行錢ヲ拂フヘキ場所ナルヲ第二其定リタル通行錢ヲ出サスシテ通行シタルノ二條件ヲ以テ成ル

學說 第四項ノ罪ハ第一路上ナルヲ第二賭博ニ類スル商業ヲ爲シタルノ二條件ヲ以テ成ル此ニ類スル商業トハ現今市街ニ流行スル玉轉カシニシテ其當ラサルモノニ菓子ノ一個モ與ヘサルカ加キハ即チ本項ノ罪ヲナス

學說 第五項ノ罪ハ第一劇場其他觀物場ヲ開クヲ第二之ヲ開クニ官許ヲ得サルカ又ハ其規則ニ違背シタルノ二條件ヲ以テ成ル

ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者(刑)一六
三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者(刑)二六〇、二六一、

五官許ヲ得スシテ劇

學說 第六項ノ罪ハ第一溝渠下水ナルヲ第二之ヲ毀損スルカ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ之ヲ浚ハサルノ二條件ヲ以テ成ル

學說 第七項ノ罪ハ第一路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列スルヲ第二制止ヲ肯セサルノ二條件ヲ以テ成ル

場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者(刑)二四八、四二一以下
七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

學說

第八項ノ罪ハ第一官有地ナルヲ 第二官許ヲ得スシテ之ニ獸類ヲ放チ又ハ牧畜シタルヲノ二條件ヲ以テ成ル

八官許ヲ得スシテ獸

類ヲ官有地ニ放チ

又ハ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ

及ヒ之ヲ業トスル

者

十他人ノ繫キタル牛

馬其他ノ獸類ヲ解

放シタル者

十一他人ノ繫キタル

舟筏ヲ解放シタル

學說

第九項ノ罪ハ身體ニ刺文シ又ハ之レヲ業トセハ罪ヲ成ス

學說

第十項ハ第一他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ナルヲ 第二之ヲ解放スルヲノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第十一項ハ第一他人ノ舟筏ナルヲ 第二之ヲ解放シタルヲノ二條件ヲ以テ罪ヲ成ス

者

第四百二十九條 左ノ

諸件ヲ犯シタル者ハ

五錢以上五十錢以下

ノ科料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害

ト爲ル可キ場所ニ

舟筏ヲ繫キタル者

二牛馬諸車其他物件

ヲ道路ニ横タヘ又

ハ木石薪炭等ヲ堆

學說

第一項ハ第一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ナルヲ 第二其場所ニ舟筏ヲ繫キタルヲノ二條件ヲ以テ罪ヲ成ス

學說

第二項ノ罪ハ第一牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シタルヲ 第二行人ノ妨害ヲ爲シタルヲノ二條件ヲ以テ

成ル

學說

第三項ノ罪ハ第一車馬ヲ並ヘテ牽行スルコト 第二行人ヲ妨害シタルコトノ二條件ヲ以テ成ル

積シテ行人ノ妨害

ヲ爲シタル者(刑二六以下)

三車馬ヲ並ヘテ牽テ行

人ノ妨害ヲ爲シタル者

ル者

四水路ニ於テ舟ヲ並

ヘ通船ノ妨害ヲ爲

シタル者

五冰雪塵芥等ヲ路上

ニ投棄シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケ

學說

第五項ノ罪ハ冰雪塵芥ナルコト 第二路上ニ投棄シタルコトノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第六項ノ罪ハ第一官署ノ督促ヲ受ケタルコト 第二道路ノ掃除ヲ爲サルコトノ二條件ヲ以テ成ル

テ道路ノ掃除ヲ爲

サル者

七制止ヲ肯セスシテ

路上ニ遊戯ヲ爲シ

行人ノ妨害ヲ爲シ

タル者

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫

クコトヲ忽カセニシ

テ行人ノ妨害ヲ爲

シタル者

九出入ヲ禁止シタル

學說

第七項ノ罪ハ第一路上ノ遊戯ナルコト 第二制止ヲ肯セサルコト 第三行人ノ妨害ヲナシタルコトノ三條件ヲ以テ其罪ヲ成ス

學說

第八項ノ罪ハ第一牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽セニシタルコト 第二行人ノ妨害ヲナシタルコトノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第九項ノ罪ハ第一出入ヲ禁止シタル場所ナルコト 第二濫リニ出入シタルコトノ二條件ヲ以テ成ル

學說

第十項ノ罪ハ第一通行禁止ノ榜示アルヲ第二榜示アルニモ拘ハラス通行シタルノ二條件ヲ以テ成ル

場所ニ濫リニ出入シタル者

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

學說

第十一項ノ罪ハ第一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シタルヲ第二制止ヲ肯セサルノ二條件ヲ以テ成ル

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

學說

第十二項ノ罪ハ第一路上ナルヲ第二酩酊シテ喧噪シ又ハ醉臥スルノ二條件ヲ以テ成ル

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

學說

第十三項ノ罪ハ第一路上ノ常燈ナルヲ第二之ヲ消シタルノ二條件ヲ以テ成ル

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者

學說

第十四項ノ罪ハ第一牆壁ナルヲ第二貼紙又ハ樂書ヲ爲シタルノ二條件ヲ以テ成ル

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

學說

第十五項ノ罪ハ第一邸宅番號標札招牌又ハ貸屋賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標ナルヲ第二之ヲ毀損シタルノ二條件ヲ以テ成ル

十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸屋賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者(刑)四

學說

第十六項ノ罪ハ第一他人ノ田野園圃ニアル菜葉又ハ花卉ナルヲ第二之ヲ採食シ又ハ採折シタルノ二條件ヲ以テ成ル

十六他人ノ田野園圃

學說

第十七項ノ罪ハ公園ノ取締リ上設ケタル規則ニ違背シタル者ハ本項ノ罪ヲ成ス

學說

第十八項ノ罪ハ第一通路ナキ田圃ナルコト第二之レヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽キ入レタルコトノ二條件ヲ以テ成ル

第四百三十條

令訓

十四年八月卅一日太政官第七十七號達(刑法第四百卅條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪ヲ定メ發シタルルキハ之ヲ主務省ヘ届出ヘシ此旨相違候事(十四年十一月廿一日内務省番外達)本年(八月)第七十七號公達中主務ノ省トアルハ内務司法兩省ヲ指稱シタル儀ニ候條爲心得此旨相

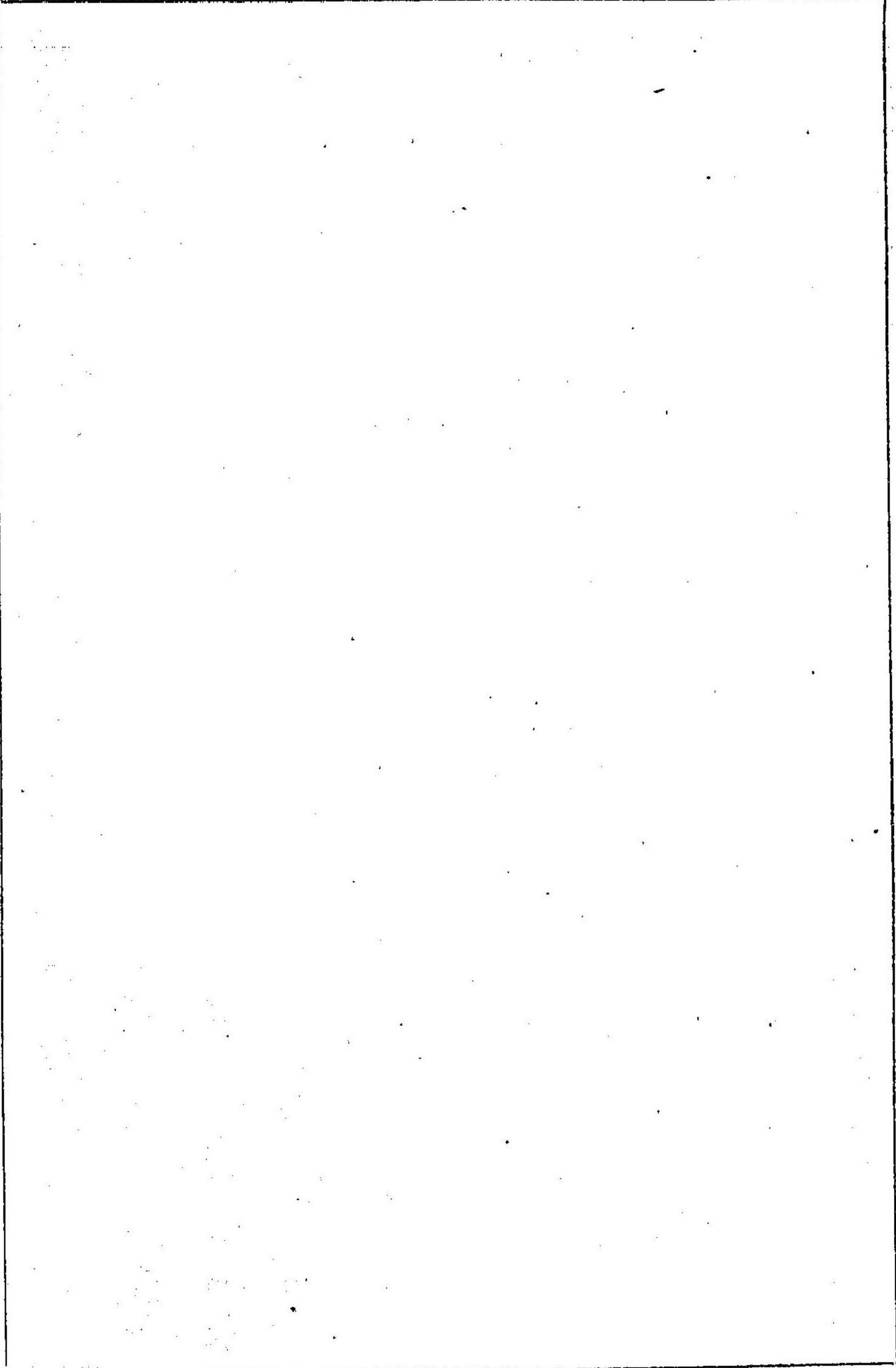
ニ於テ茶菓ヲ採食
シ又ハ花卉ヲ採折
シタル者(刑)四
十七公園ノ規則ヲ犯
シタル者
十八通路ナキ他人ノ
田圃ヲ通行シ又ハ
牛馬ヲ牽入シタル
者

第四百二十條 前數條

ニ記載スルノ外各地

違候事

方ノ便宜ニヨリ定ム
ル所ノ違警罪ヲ犯シ
タル者ハ其罰則ニ從
テ處斷ス



刑法附則

第一條

令訓

(十四年十二月十九日第六十七號布告) 刑法附則別冊ノ通相定明治十五年一月ヨリ之ヲ執行ス

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行

ヲ爲ス裁判所ノ檢察

官書記及典獄刑場ニ

立會典獄ヨリ囚人ニ

死刑ヲ執行ス可キヲ

告知シタル後押下

ナシテ之ヲ決行セシ

ム但其時限ハ午前十

時前トス(刑一)

主刑執行

第二條

第二條 死刑ヲ行フ時

ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス(刑)一ニ

第三條

第三條 死刑ノ執行畢

リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署

第四條

第四條 左ニ記載シタ

名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ(刑)二、三、四
ル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス(刑)一、二、三、四
元始祭
孝明天皇祭
紀元節
春季皇靈祭
仁孝天皇祭

神武天皇祭
 六月大祓
 秋季皇靈祭
 神宮神嘗祭
 天長節
 後桃園天皇祭
 新嘗祭
 光格天皇祭
 十二月大祓
 第五條 死刑ノ宣告ヲ
 受ケタル婦女懷胎ト

第五條

申スル者ハ醫師及ヒ
 穩婆ヲシテ之ヲ檢査
 セシメ果シテ懷胎ナ
 ル時ハ檢察官ヨリ司
 法卿ニ上申シテ其執
 行ヲ停メ産後一百日
 ナ經テ更ニ司法卿ノ
 命令ヲ受ケ決行スヘ
 シ(刑)
 一
 第六條 死刑ノ遺骸ハ
 一定ノ場所ニ埋ム若

第六條

主刑執行

第七條

シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルヲ得

(刑)一六、

第七條 死刑ノ宣告ヲ

受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條

第八條 死刑ヲ執行シ

第九條

タル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告スヘシ
刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
犯罪ノ地
犯人住居ノ地
第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シ

第十條

タル地ノ監獄管理長
官ヨリ内務卿ニ上申
シ其命令ヲ待テ發船
ノ地ニ護送ス可シ
(刑)一七、

第十條 徒刑ノ囚ハ島

地ニ於テ便宜ニ從ヒ
獄外ノ役ニ服セシム
ルヲ得^{(刑)一}

第十一條

第十一條 流刑ノ囚幽
閉中獄内ニ於テ自ラ

第十二條

工業ヲ爲サント請フ
者ハ典獄之ヲ許ス可
シ^{(刑)二}

第十二條 流刑ノ囚幽

閉ヲ免ス可キアル時
ハ典獄ヨリ内務司法
兩卿ニ上申シ其許可
ヲ受ク可シ^{(刑)二}

第十三條

第十三條 徒刑ノ囚假
出獄ヲ許サレタル者
又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ

免セラレタル者家屬
 ナ招キ同居スルヲ請
 フ時ハ之ヲ許スヲ
 得但其路費ハ自ラ之
 ヲ辨ス可シ(刑二)
 第十四條 流刑ノ囚幽
 閉ヲ免シ地ヲ限り居
 住セシムル者ハ監獄
 近傍ノ地ヲ限り典獄
 ノ監督ヲ受ケシム若
 シ已ムヲ得サル事

故アル時ハ典獄ニ請
 フテ限外ニ出ルヲ
 得(刑二)
 第十五條 流刑ノ囚幽
 閉ヲ免セラレタル者
 再ヒ罪ヲ犯シタル時
 ハ本刑期限内ト雖モ
 島地ニ於テ直チニ其
 刑ヲ執行スヘシ(刑二)
 第十六條 懲役重禁錮
 ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄

第十七條

外ノ役ニ服セシムル
ヲ得(刑)三三、
三四、

第十七條 禁獄輕禁錮

ノ囚獄内ニ於テ自ラ
工業ヲ爲サント請フ
者ハ典獄之ヲ許スヘ

シ(刑)三三、
三四、

第十八條

第十八條 服役限内更
ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役
ニ服スル者後犯ノ刑
期百日以内ハ工錢ヲ

第十九條

給與セス(刑)二
五、

第十九條 囚人ニ給與

スル工錢ノ額ヲ定メ
之ヲ交附シ及ヒ領置
スル方法ハ監獄ノ規
則ニ從フ(刑)二
五、

第二十條

第二十條 罰金科料ノ

宣告ヲ受ケ未タ納完
セサル前ニ於テ犯人
身死スル時ハ之ヲ徵
收セス附加ノ罰金ニ

於ケルモ亦同シ(刑)二
七二九、
四二、

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主
刑ノ終リタル後仍ホ
將來ヲ檢束スル爲メ
警察官吏ヲシテ犯人
ノ行狀ヲ監視セシム
ル者トス(刑)三四、
三七、

第二十二條 (明治十五年第四
十二號布告ヲ以
テ改
正ス)

監視ニ附スベキ者ハ
預メ其住所ヲ定メシ
メ主刑ノ終リタル時
典獄ヨリ最近ノ警察
所ニ護送シ其警察所
ヨリ住居ノ地ノ警察
署ニ送致シ監視ヲ執
行セシム但主刑ノ期
滿免除ヲ得タル者又
ハ主刑ヲ免ジ止タ監
視ニ付スルモノハ其

第二十三條

裁判所ノ檢察官ヨリ
護送スベシ

第二十三條 犯人ヲ警
察所ニ護送スル時ハ
其監視ノ起算滿期ヲ
記載シタル文書及ヒ
刑名宣告書ノ謄本ヲ
附ス可シ

第二十四條

第二十四條 (明治十五年第四
十二號布告ニヨ
リ削
除ス)
犯人ハ住居遠地ニ在

第二十五條

令訓 (十五年六月二日內務省ヨリ府縣へ訓示) 凡ソ監視ニ付セラレシ犯
人ノ住居地ニ在テ一日程ヲ過クル者典獄若クハ檢察官ヨリ最近ノ
警察署へ護送シ來ルルハ刑法附則第二十五條ノ手續ニ依ル可キ處中ニハ警
察傳遞ヲ以テ送致スル向モ有之哉ニ相聞ヘ右ハ刑法附則ノ明文ニ背キ且費
用ニモ差響候義ニ付右等之義無之様可致此旨及訓示候也 (十六年二月七日
司法省ヨリ各裁判所へ内訓) 監視ニ付セラレタル者住居ノ地ニ送致申逃走
シタル時逮捕ノ義ニ付別紙ノ通監視總監ヨリ上申候條右ハ監視ヲ執行スヘ
キ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ニ及フ可キ義ト心得可シ但被告人ノ申立タル
地ニ住居ナキ者ハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ右處分ヲ爲ス可キ者トス

テ一日程ヲ過クル者
ハ典獄若クハ檢察官
ヨリ先ヅ最近ノ警察
所ニ護送シ其警察署
ヨリ住居ノ地ノ警察
署ニ護送スベシ

第二十五條 警察所ヨ
リ犯人ヲ住居ノ地ノ
警察所ニ送致スル時
ハ其里程ヲ計リ日數
ヲ限定シテ旅券ヲ付

此旨及内訓候也(別紙上申)(十六年一月二十七日付)刑法附則第二十五條ニ依リ監視ニ付セラル可キ者ハ旅券ヲ附與シ送致途中本人逃亡セシ場合ニ於テハ現ニ監視ノ執行ヲ爲ス可キ地ノ警察署ニ於テ治罪ノ手續爲致候ヘ共他府縣ニテハ其取扱區々ニシテ實際差支ヲ生シ候條一定ノ取扱ニ相成候様至急御訓示相成度此段上申候也

與シ犯人到着ノ日直
チニ之ヲ其地ノ警察
所ニ差出サシム但途
中事故アリテ淹滞シ
タル時ハ第三十一條
ノ例ニ從フ可シ
犯人ヲ送致スル時ハ
第二十三條ニ記載シ
タル書類ヲ其地ノ警
察所ニ遞送ス可シ

第二十六條

令訓(十五年三月廿二日内務省乙第十九號達)刑法附則中監視票旅券共別紙書式之通相定候條各廳ニ於テ調製シ下附スヘシ此旨相達候事

第二十六條 犯人住居

(別紙表式之ヲ署ス)
判例(十九年十一月十六日)刑法附則第二十六條ヲ繙閱スルニ監視ニ付セラレタル者ハ住居地ノ警察署ニ於テ監視ノ期限間遵守ス可キ條件ノ讀聞ケテ受ケ及ヒ監視票ノ下付アリタル后其條件ヲ遵守スル順序ナルカ故ニ假令主刑終ルモ右附則第二十六條ノ手續ヲ踐行セサル限りハ直チニ進メテ監視執行中ノ身分ト名稱スルヲ得ス故ニ未タ監視票ノ下付ナキ前ニ擅ニ旅行スルモ罪トナラス

ノ地ノ警察所ニ於テ
ハ監視ノ期限間遵守
ス可キ條件ヲ讀聞カ
セ監視ノ票ヲ下付ス
可シ
第二十七條 監視ニ付
セラレタル者ハ其期
限間左ノ條件ヲ遵守
ス可シ(刑)一
一 每月二度所轄ノ警
察所ニ到リ其謹慎

第二十七條

ナルヲ表シ監視
 ノ票ヲ出シ官吏ノ
 認印ヲ受ク可シ但
 疾病又ハ已ムヲ
 得サル事故アリテ
 警察所ニ到ルヲ能
 ハサル時ハ其事由
 ナ届出ツ可シ
 二酒宴遊興ノ席ニ會
 シ又ハ群集ノ場所
 ニ參會スルヲ許

サス
 三事故アリテ其住居
 ナ轉移セントスル
 時ハ警察所ニ申請
 シ許可ヲ受ク可シ
 四擅ニ他ノ地方ニ旅
 行スルヲ許サス
 若シ已ムヲ得サ
 ル事故アル時ハ其
 事由ヲ警察所ニ具
 申シ許可ヲ受ク可

令訓

(十五年十一月司法省ヨリ横濱裁判所ニ内訓) 刑法附則第二十七條
 第四項擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サストアル該地方トハ他府縣
 ナ指ス義ト心得ヘシ(十七年三月廿六日内務省乙第十九號警視府縣ヘ達) 監
 視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スルハ必ス監視票ヲ携帶セシメ其滯
 留數日ニ涉ル者ハ滯留地ノ警察署ニ至リ謹慎ヲ表シ官吏ノ認印ヲ受ケシム
 可シ此旨相達候事○但官吏ノ認印ハ監視票ノ裏面旅行中欄内ニ捺印スベシ

第二十八條

シ

第二十八條。監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコアル可シ

第二十九條

第二十九條。警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書

第三十條

令訓

(十五年三月二十二日内務省乙第十九號達)(第二十六條ノ上欄ヲ參照スヘシ)

類ヲ遞送ス可シ

第三十條。他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ

第三十一條

認印ヲ受ケ限定ノ日
 數内ニ歸リ來リ直チ
 ニ旅券ヲ警察所ニ還
 納ス可シ

第三十一條 旅行中天
 災又ハ疾病等ニ因リ
 臨時淹滞シタル時ハ
 事由ヲ其地ノ警察所
 ニ具申シ官吏ノ證書
 ナ受ケ歸着ノ日旅券
 ナ添へ警察所ニ差出

第三十二條

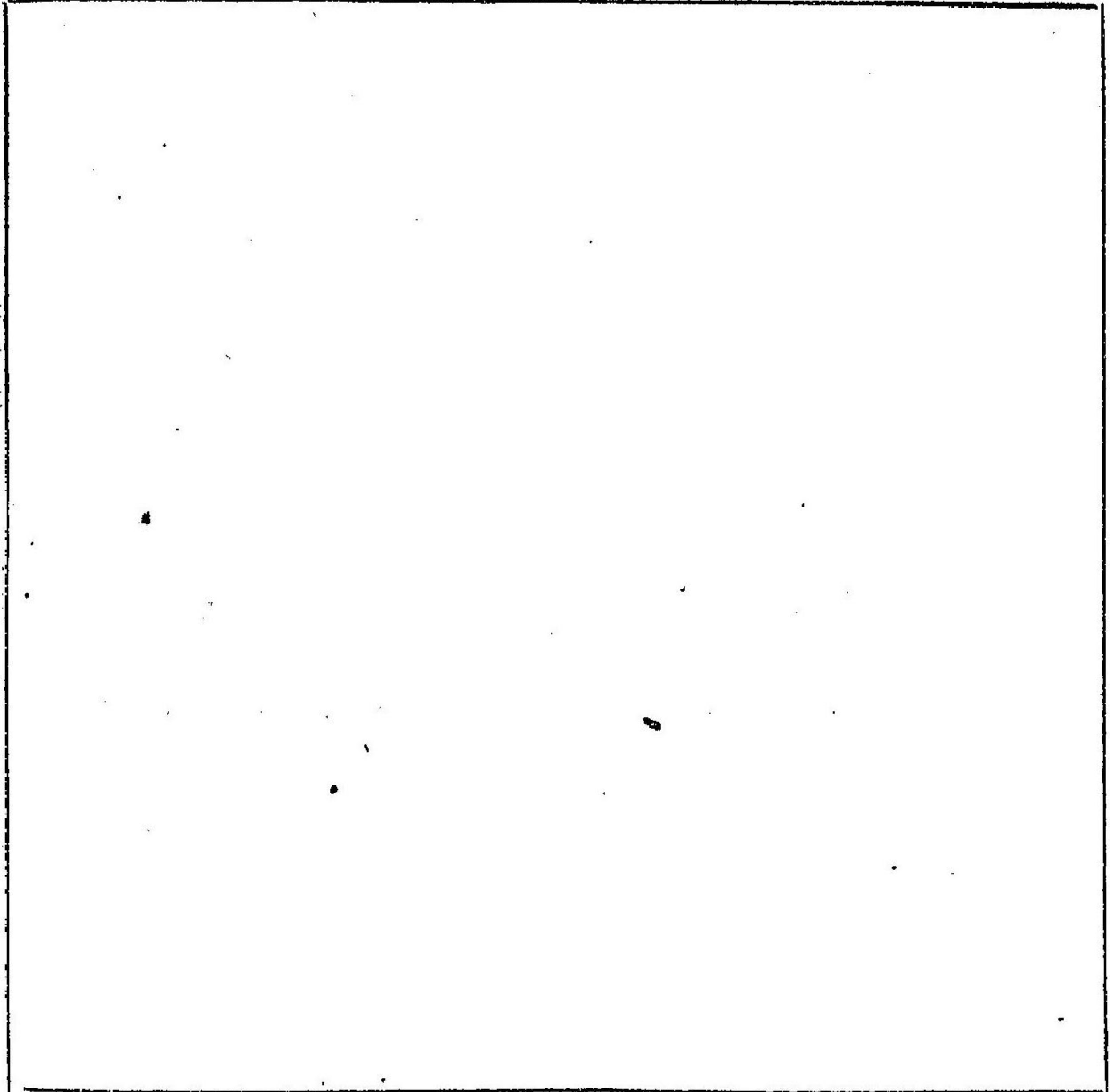
令訓 (十六年十二月二十日太政官第六十二號達) 監獄則第三十條ニ依リ
 監獄中ノ別房ニ留置シタル者及ヒ刑法附則第三十二條ニ依リ別房
 ニ留置シタル者若シ監内ノ規則ヲ犯スルハ監獄則第一百七條ニ準據處分スヘ
 シ此旨相違候事

第三十三條

第三十二條 監視ニ付
 スル者住居ナク及ヒ
 引取人ナキ時ハ其期
 限間監獄中ノ別房ニ
 留置シ工業ヲ爲サシ
 メ又ハ使役ニ供ス住
 居遠地ニ在テ歸着ス
 ル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ
 別房ニ留置シタル者

第三十四條



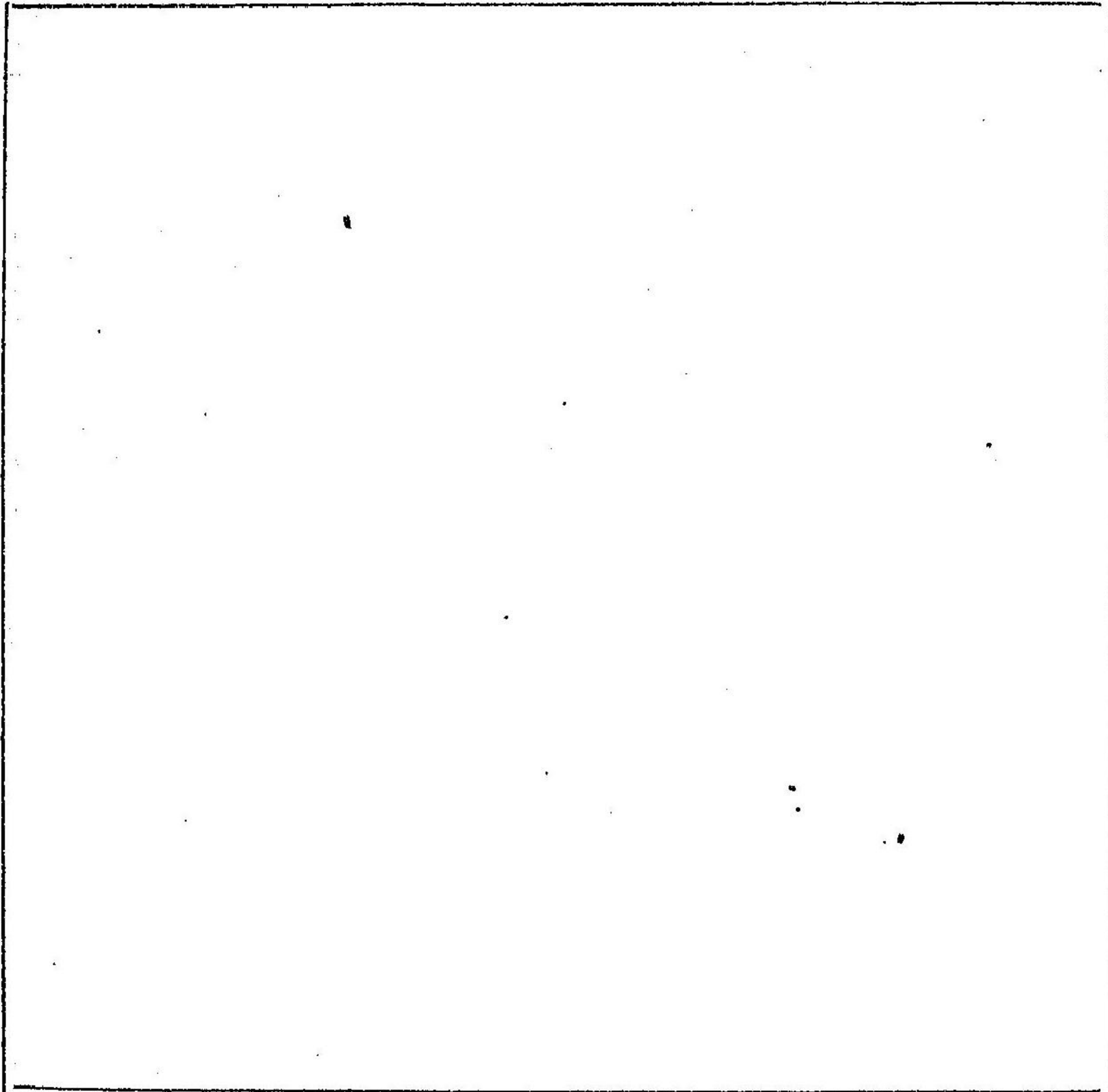
期限内引取人ヲ得又
ハ住居ノ地ニ歸着ス
ル資力ヲ得タル時ハ
其地ニ送致シテ殘期
ノ監視ヲ執行セシム
可シ

第三十四條 刑期限内

再ヒ罪ヲ犯シ初犯再
犯共ニ監視ニ付ス可
キ時又ハ監視ノ期限
間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ

第三十五條

第三十六條



監視ニ付ス可キ時ハ
并ニ主刑滿限ノ後前
後ノ期限ヲ通算シテ
監視ヲ執行スヘシ

(刑)五
六

第三十五條 罰金ヲ禁

錮ニ換ヘタル者監視
ニ付ス可キ時ハ其禁
錮ノ日數ヲ監視ノ期
限ニ算入ス可シ(刑)二
七

第三十六條 監視ニ付

第三十七條

セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得(刑)四

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ移轉スル時ハ第二十七條第三及ヒ第

二十九條ノ例ニ從フ可シ(刑)四

第三章 假出獄及ヒ特別監視

假出獄及ヒ特別監視 第三十八條

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシトシテ内務司法兩卿ニ上申シテ

第三十九條

令訓(十五年四月四日內務省番外達)已決ノ四ニ假ニ出獄ヲ許ストキハ別紙書式ニ從ヒ宣告狀付與ス可シ此旨相達候事(別紙書式ハ之ヲ畧ス)

許可ヲ受ク可シ(刑)五

第三十九條 假出獄ヲ

許シタル時ハ典獄ヨ

リ其證書ヲ犯人ニ下

付ス可シ(刑)五

第四十條 假出獄證票

ニハ左ノ條件ヲ記載

ス可シ(刑)五

一本人ノ屬籍氏各年

齡住所罪名刑名及

ヒ處刑ノ年月日

第四十條

第四十一條

假出獄及ヒ特別監視

第四十一條 重罪ノ刑

- 二殘期何年何月何日
- 間假出獄ヲ許ス事
- 三假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
- 四假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

ニ處セラレタル者出
獄中自ラ財産ヲ治メ
若クハ職業ヲ營マン
トスル時ハ警察所ニ
申請シ許可ヲ受ク可
シ(刑)五
三

第四十二條

(十五年八月十二
日第四十二號布

告ヲ以
テ改正

假出獄ヲ許ス可キ者
ハ豫メ其住所ヲ定メ
シメ出獄ノ日曲獄ヨ

第四十二條

第四十三條

リ其證票ノ謄本ヲ添
ヘ第二十二條ノ例ニ
依リ犯人ヲ護送シ特
別監視ヲ執行セシム
可シ(刑)五
三

第四十三條 特別監視

ニ付スル者ハ第二十
三條第二十四條第二
十五條第二十六條第
二十九條第三十一條
ノ例ヲ適用ス(刑)五
五

第四百二十八

第四十四條 特別監視

ニ付セラレタル者ハ
其期限間左ノ條件ヲ
遵守ス可シ(刑)五五、
一五五

一 毎週間一度所轄ノ
警察所ニ到リ其謹
慎ナルヲ表シ監
視ノ票ヲ出シ官吏
ノ認印ヲ受ク可シ
但疾病又ハ已ム
ヲ得サル事故アリ

テ警察所ニ到ル
能ハサル時ハ其事
由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會
シ又ハ群集ノ場所
ヘ參會スルヲ許
サス

三 事故アリテ住居ヲ
轉移セントスル時
ハ警察所ニ申請シ
許可ヲ受ク可シ但

第四十五條

他ノ府縣ニ轉移ス
ルヲ許サス
囚往復一日程ヲ過ク
ル地ニ旅行スルヲ
ヲ許サス

第四十五條 特別監視
ノ期限間ハ警察官吏
時宜ニ因リ其家宅ニ
臨檢スルヲアル可シ
(刑)五五、

第四十六條

第四十六條 假出獄ヲ

許サレタル者刑期滿
限ノ日ニ至レハ假出
獄證票ヲ警察所ニ還
納シ警察所ヨリ證票
ヲ出シタル典獄ニ遞
送ス可シ(刑)五
五
主刑滿限ノ後監視ニ
付ス可キ犯人ナルハ
ハ警察所ニ於テ第二
章ノ例ニ從テ處分ス
可シ

第四十七條

刑事裁判費用

第四十八條

四百三十二

第四十七條 假出獄ヲ

許ス可キ者住居ナク

及ヒ引取人ナキ時ハ

第三十二條ノ例ニ從

ヒ監獄中ノ別房ニ留

置ス可シ(刑)五

第四章 刑事裁判

費用

第四十八條 豫審公判

ニ付キ呼出シタル證

人醫師鑑定人通辨人

第四十九條

令訓(十六年十一月十六日司法省丁第三十三號達)本年第三十九號ヲ以テ刑法附則第四十九條改正ノ競公布相成候ニ付テハ各地内ニ於テ專ラ實際消費スル費額ヲ量定シ豫メ金額其租限ヲ設ケ速ニ當省へ可届出此旨相達候事

翻譯人ニ給與ス可キ
日當旅費上宿料及ヒ
第五十一條第五十二
條ニ記載シタル者ヲ
以テ刑事ノ裁判費用
ト爲ス(刑)四

第四十九條(十六年第三十九號)布告ヲ以テ改正

日當旅費及ヒ止宿料

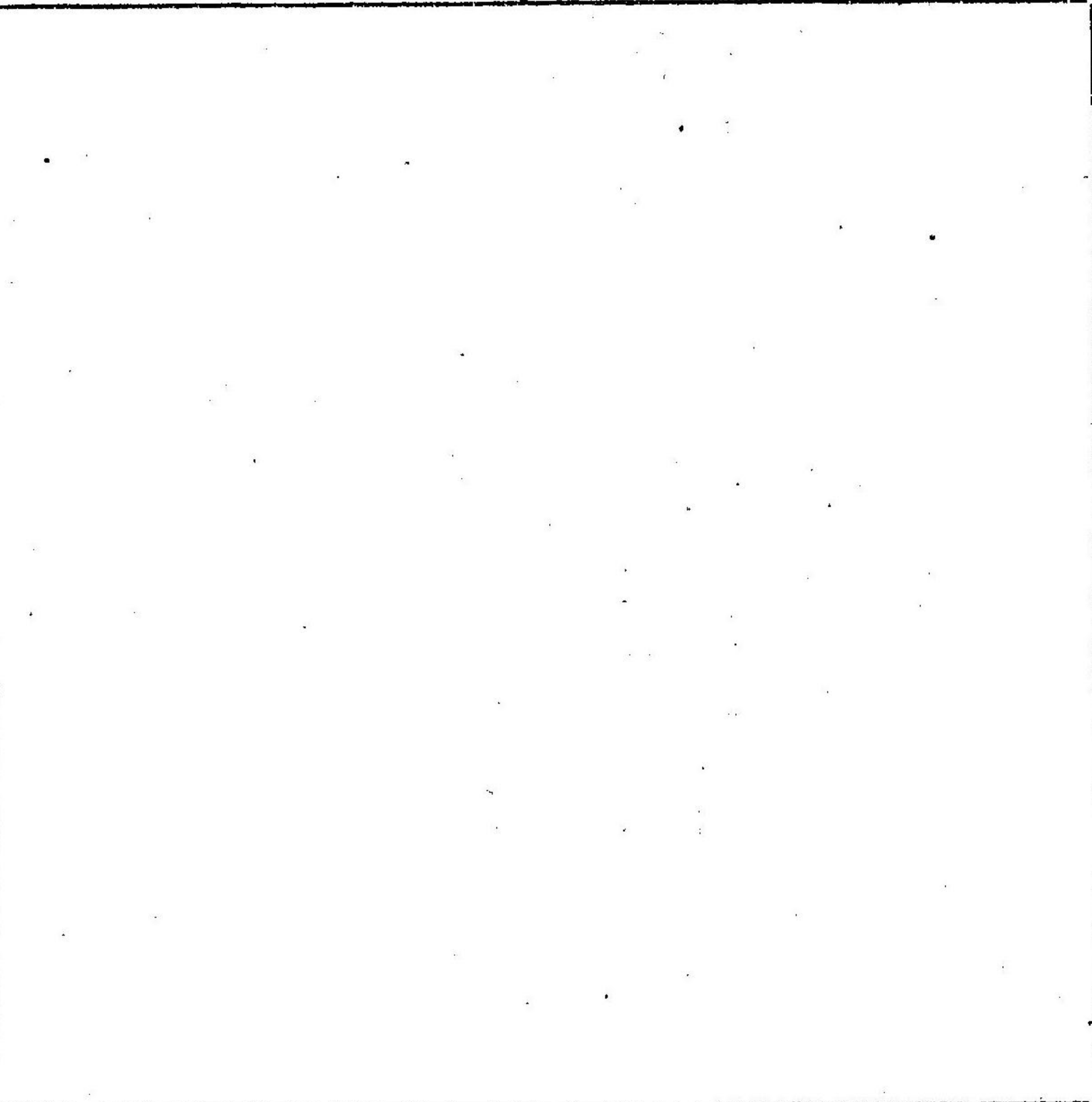
ハ左ノ制限ニ據リ各

地方適宜其額ヲ定ム

ベシ(刑)四五、
(治)一九〇、

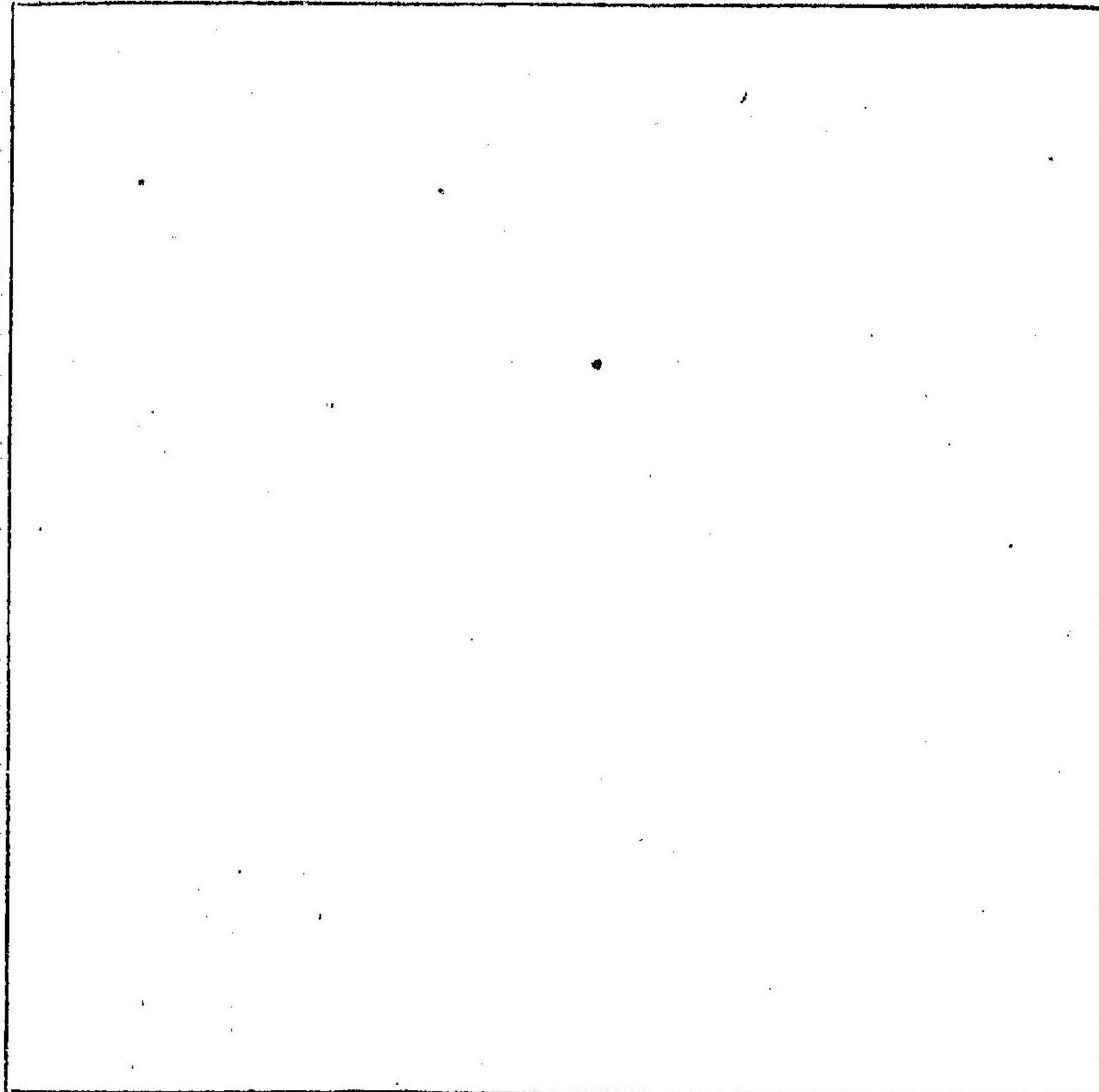
刑事裁判費用

四百三十三



日當五十錢已下
 旅費一里十錢已下
 止宿料一宿二十五錢
 已下
 住居三里以外ノ地ニ
 在ル者ハ往復旅費ヲ
 給シ及ヒ呼出ノ地ニ
 滯在中日當並ニ止宿
 料ヲ給ス其三里未滿
 ノ地ニ在ル者ハ旅費
 止宿料ヲ給セス

第五十條



第五十條 證人ノ日當
 旅費及ヒ止宿料ハ本
 人ノ請求アルニ非サ
 レハ之ヲ給與セス
(刑)四五、
 (海)一九〇、
 第五十一條 證人日稼
 ナ以テ生業トスル者
 治罪法第百九十條ニ
 從ヒ償金ヲ要求スル
 時ハ旅費日當ノ外若
 干ノ償金ヲ給スルヲ

第五十一條

第五十二條

第五十三條

賠償處分
第五十四條

第五十五條

四百三十六

アル可シ(刑)四

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收

ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人

ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト

雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムルモノトス

(刑)四六

第五十五條 贓物輾轉

賠償處分

四百三十七

シテ他人ノ手ニ在ル
時公商ニ由リ買取シ
タル物品ハ其公商若
クハ被害者ヨリ買取
者ニ原價ヲ償ハサレ
ハ直チニ還給セシム
ルヲ得ス(刑)四
六
若シ公商ニ由ラスシ
テ買取シタル物品ハ
其還給ヲ拒ムヲ得
ス但其買取者ハ賣者

第五十六條

第五十七條

賠償處分

ニ對シ轉償ヲ求ムル
ヲ得(刑)四
六
第五十六條 贓物ヲ受
ケ又ハ典物トシテ受
取タル者其贓物現在
スル時ハ還給ヲ拒ム
ヲ得ス但典物トシ
テ受取タル者ハ典主
ニ對シ轉償ヲ求ムル
ヲ得(刑)四
六
第五十七條 贓物交換

第五十八條

第五十九條

シテ現在スル時ハ公
 商ニ由ルト否トヲ區
 別シ第五十五條ノ例
 ニ從テ處分ス(刑)四
 六
 第五十八條 贓物已ニ
 費用シタル時又ハ識
 別ス可ラサル時又ハ
 其所在ノ知レサル時
 ハ損害ノ賠償ヲ請求
 スルヲ得(刑)四
 六
 第五十九條 人ノ名譽

第六十條

若クハ殺傷ニ關シタ
 ル損害其他犯罪ノ爲
 メ現ニ生シタル損害
 ハ其賠償ヲ請求スル
 ヲ得但失火ハ此限
 ニ在ラス(刑)四
 六
 第六十條 贓物ノ還給
 損害ノ賠償ハ其犯罪
 ヲ審判スル刑事裁判
 所ニ請求スルヲ得
 若シ其審判已ニ終リ

第六十一條

タル後ハ民事裁判所
ニ非サレハ之ヲ請求
スルコトヲ得ス(刑)四六四
八(治)四九
四
第六十一條 刑事裁判
所ニ於テ贓物ノ還給
損害ノ賠償ヲ請求ス
ル者ハ通常ノ文書又
ハ言語ヲ以テ之ヲ爲
スコトヲ得其民事裁判
所ニ請求スル者ハ民

第六十二條

事訴訟ノ程式ニ從フ
可シ(刑)四六四八、
(治)九四、

第六十三條

第六十二條 贓物ノ還
給損害ノ賠償ハ本犯
死スル時ハ其相續人
ニ對シ之ヲ要求スル
コトヲ得(刑)四六、
四八、
第六十三條 贓物ノ還
給損害ノ賠償ノ宣告
ヲ受ケタル者還給賠
償セサル時ハ被害者

ヨリ更ニ民事裁判所
ニ身代限ノ處分ヲ請
求スルヲ得(刑)四六、
四八、

版權登錄

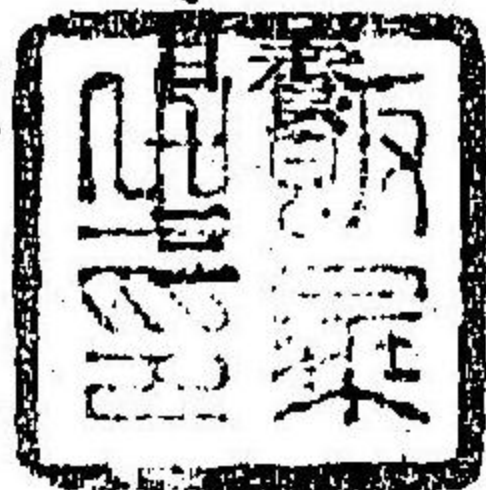
本日 刑法實用 終

明治二十一年十二月一日出版御届
同 年十二月五日發行

定價 一圓

著作者 千 阪 彦四郎

東京々橋區木挽町二丁目十三番地



發行者 飯 塚 忠

東京々橋區銀座四丁目一番地

發兌所 博 明 法 堂

東京神田區裏神保町七番地

同 丸 善 商 社 書 店

東京日本橋區通三丁目

印刷者 小 林 真太郎

麴町區有樂町二丁目二番地

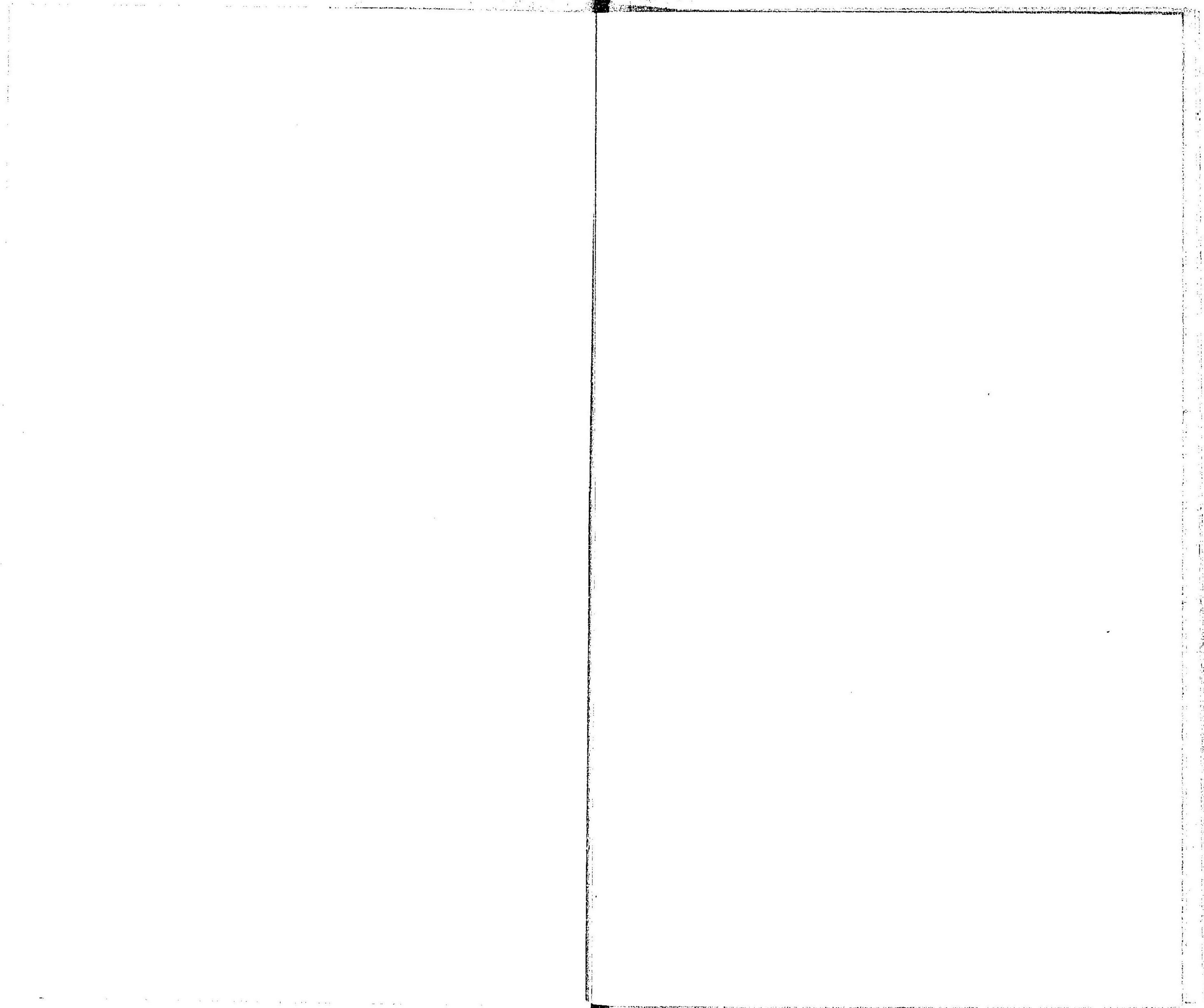
印刷所 東京京橋區西紺屋町 秀英 舍

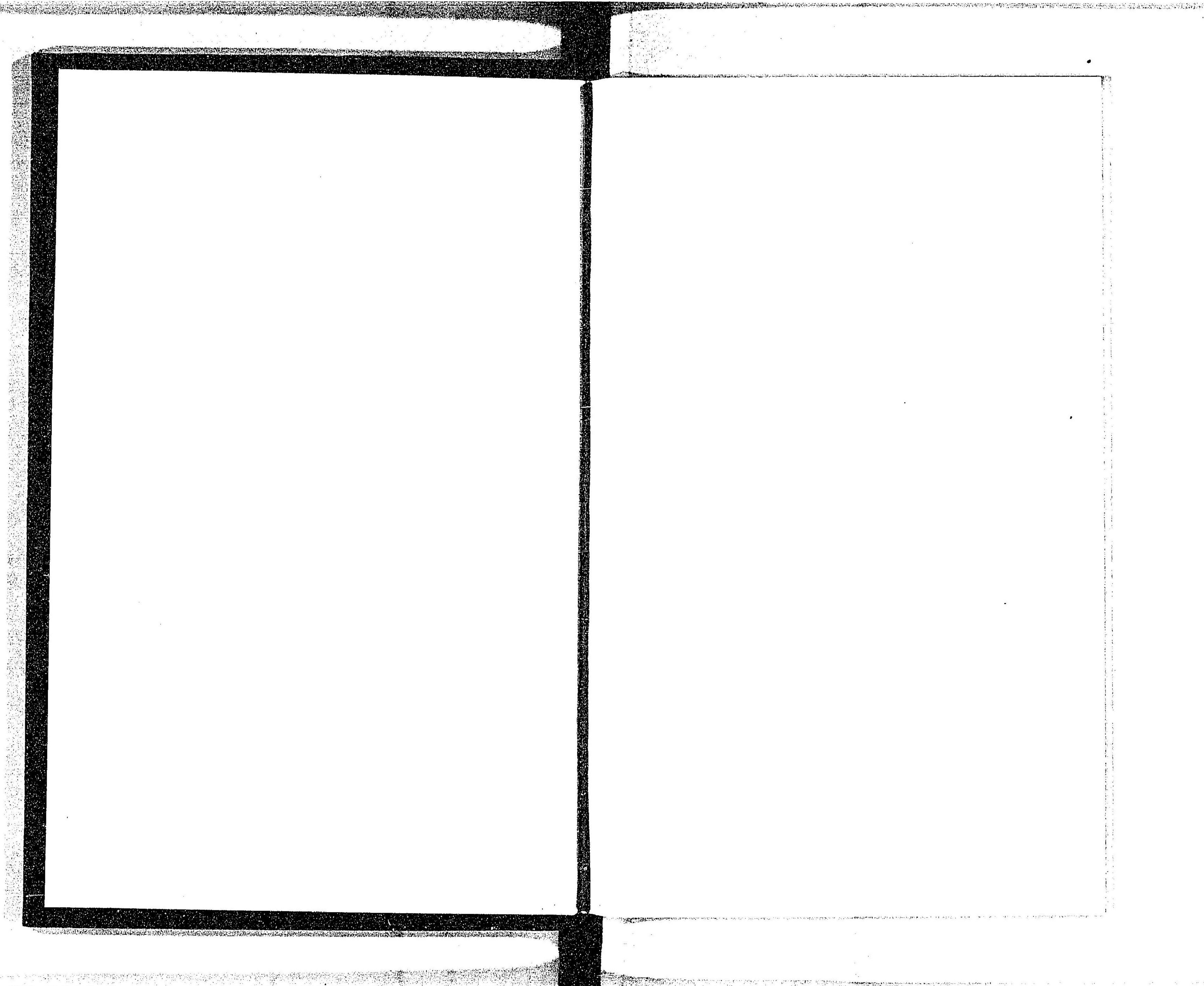


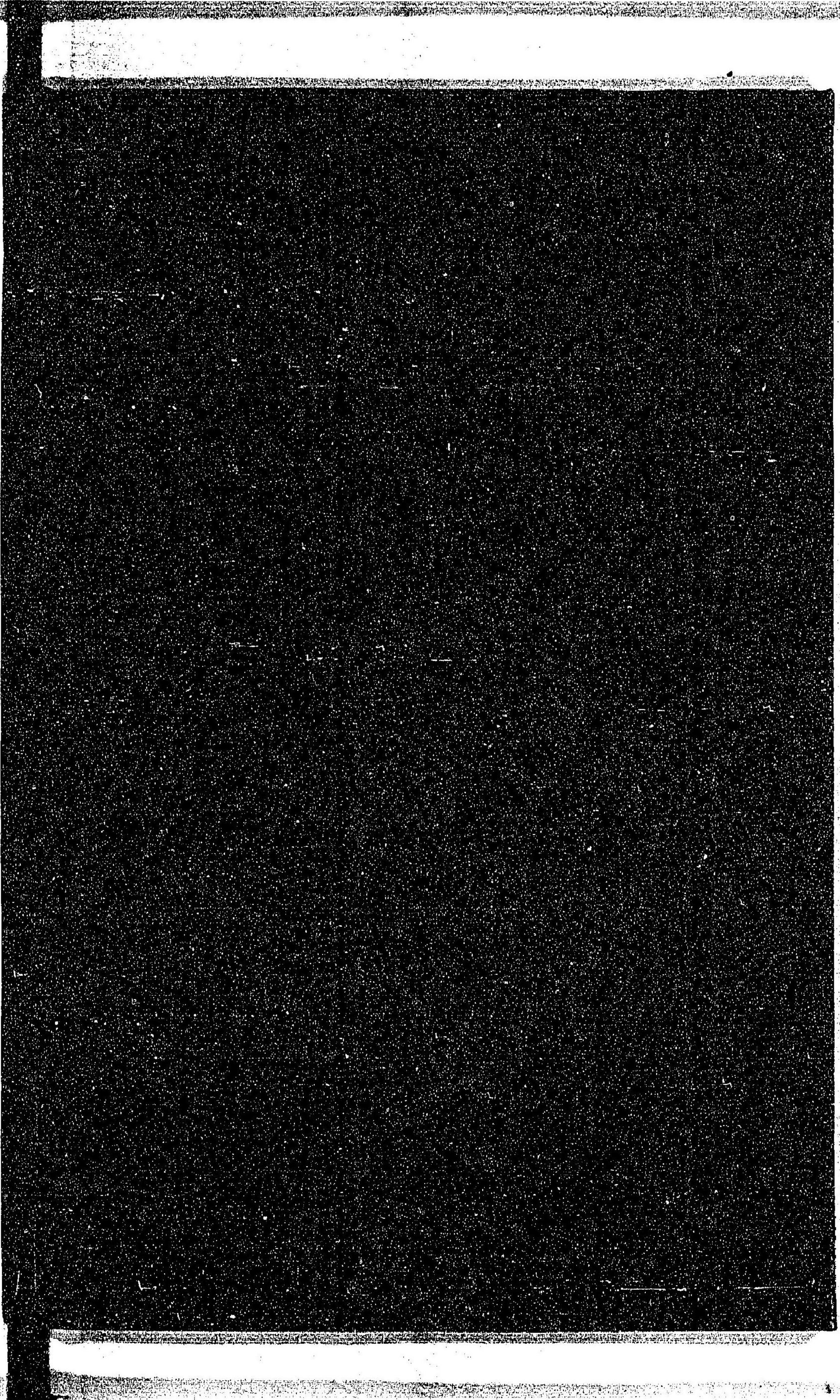
54

大賣捌所

○東京日本橋通一丁目北島茂兵衛○同所大倉孫兵衛○日本橋區本町一丁目厚生堂○神田錦町一丁目時習社○神田裏神保町富山房○同所三省堂○神田一橋通有斐閣○神田小川町集成社○千葉縣下千葉町博聞分社○埼玉縣浦和驛博聞分社○山形縣山形十日町荒井大次郎○宮城縣仙臺國分町伊勢安右衛門○岩手縣盛岡中橋通澤田正助○函館地藏町服部尙成○大坂本町四丁目岡島真七○同東區備後町吉岡平七○橫濱辨天通四丁目丸善商社書店○大坂北久太郎町柳原喜兵衛○藝州廣島松村善助○京都河原町大黒屋書店○名古屋鐵砲町三輪文次郎○紀州和歌山北町津田源兵衛○加州金澤尾張町雲根堂○越前福井酒井安兵衛○越中富山西町大橋甚吾○越中高岡本船町棚田喜作○同所水野儀三郎○越中魚津松倉豐治郎○三重縣四日市南町伊藤善太郎○大津京町澤一二郎○岐阜米屋町三浦源助○甲府常盤町内藤傳右衛門○群馬縣富岡町木内清三郎○新潟縣東堀通林富吉○大坂備後町博聞分社○雲州松江天神町川岡清助○石州濱田安達幾太郎○長州萩松原喜兵衛○同馬關入船町山名松次郎○防州山口中市町宮川臣吉○佐賀白山町河内莊助○肥後熊本新二丁目長崎次郎○鳥取市場町松村榮吉○德島中通町酒井万吉○高知縣種崎町澤本駒吉○愛媛縣松山宮本積德○福岡橋口町山崎登○丹波園部本町好文堂○但馬豐岡宵田町由利安助○大分縣大分町山蔭靈山○鹿島松山通池田仲輔○日向宮崎上野町山中支店○遠州掛川西町松屋好五郎○三重縣津東町淺野東助○彦根大工町田中伍郎○長野大門町小樹屋喜太郎○栃木縣栃木町小林八郎○千葉縣千葉本町藤屋鏡治郎○茨木縣上市泉町川又銀藏







24
131

036129-000-0

24-131

日本刑法実用

千阪 彦四郎 / 編

M21

BBP-0789



